

塗装の高等技術を 身につける

職業能力開発
の
現場から



東京都塗装高等技術専門校

設置・運営●東京都塗装工業協同組合
所在地●東京都渋谷区鶯谷町19-22 塗装会館1階
訓練コース●塗装系—建築塗装科
訓練期間●2年

東京都塗装高等技術専門校は、東京都塗装工業協同組合の事業として運営され、組合員事業所に勤務している従業員を対象に、2年間の職業訓練を行っている。
JR渋谷駅から徒歩10分のところにある同校を訪ねた。

○建築塗装のエキスパート養成

東京都塗装高等技術専門校は、前身の養成所から数えると50年以上の歴史がある。1500名以上の卒業生を送り出し、第一線で活躍する技能者を絶え間なく養成してきた。

小峰光弘校長は、同校の教育訓練の理念について「本校は、塗装技能者としての知識と基礎技能を身につけさせ、職業人としての自覚を体得させるとともに、業界の発展に寄与することを目的としています」と話す。

卒業生の多くは1級技能士、2級技能士の検定試験に合格し、職業訓練指導員、施工管理技士等の資格を取得。事業主として、あるいは組合員の中堅技能者として活躍している。

○素地ごしらえから仕様積算まで

塗装には、長大な橋梁塗装から自動車塗装まで、ありとあらゆる分野がある。

「一口に塗装と言っても、素材や塗装方法の違いから、さまざまな技能・技術が必要です。本校は、塗装系のうち建築塗装に特化した訓練を行っています。」

具体的には、木部・金属、壁面の素地ごしらえから上塗りまでの一貫



した作業と、それに伴う簡単な色彩の調節及び仕様積算ができるまでを目指します。ただし、広い意味で言えば塗装の基礎の基礎です。2年間で訓練できることは限られているので、『卒業してからも勉強しなさい』と言って卒業生を送り出しています」（小峰校長）

○多彩な講師陣

同校の熱心な教育訓練は、一流の講師陣によって支えられている。本誌2010年夏季号で取材したヤマギシリフォーム工業株式会社代表取締役社長の山岸純一氏も講師を務めたことがある。

同校のカリキュラム作成、スケジュール等の運営を担っている第二課長の嶋田晃二氏は、「本校の講師陣には塗装の専門家だけでなく、日本ペイント・関西ペイントといった、わが国を代表する塗料メーカーの専門家も多数おられます。」

講義内容は、日本のように湿気が

多い土地と中東の乾燥地での塗装の違いといった、他所ではなかなか聞けない内容です。訓練生たちは目を輝かせて聴いています」と語る。

また「例えば浦安市にあるアミューズメントパークのお城のような建物は、塗装が重要な役割を担っています。その塗装を手がけている企業の方に講義をしていただくと、訓練生は塗装技能者としての誇りがわいてくるようです」（小峰校長）

○グローバル化時代の専門校の使命

国や東京都は、事業内職業訓練校に対して積極的に指導し、かつ事業主に対する助成等、財政援助の強化を進めている。

最後に小峰校長は「日本の建設業も、グローバル化の中に取り込まれています。これからは世界にどんどん進出していかなければなりません。当然塗装業界も同じです。心を新たに、一流の若年後継者の育成強化を図っていくのが本校の使命だと思います」と結ばれた。

